

日本赤十字社医療センター呼吸器内科

当センターは、1886年に設立された博愛社病院(翌年、日本赤十字社病院と改称)を母体とし、1891年に現在の東京都渋谷区広尾に移転、1941年に日本赤十字社中央病院と改称しました。1972年には、1922年開設の日本赤十字社産院を統合して日本赤十字社医療センターとなり、2010年に現在の新病院を落成して今日に至ります。当センターは日本全国にある92の日本赤十字社の病院の中で最も古く、日本赤十字社の旗艦病院として33の診療科をそろえ、渋谷区を中心とする二次医療圏区西南部の中核病院として機能しています(写真1)。病床数は708床であり、PET-CTやサイバーナイフなどの最新の医療機器も整備しています。周辺に外国の大使館などの在外公館も多く、渋谷駅から約10分、羽田空港からも約30分の立地であるため、都内の患者さんはもとより海外からの患者さんも多く、国際色豊かな病院で病院専属の通訳も常駐しています。当センターは以前より救急災害医療・周産期医療に力を入れてきましたが、2017年に新院長を迎え「CEO+S」を重点プロジェクトとして運営しております。CはCancer、EはEmergency、OはOperationの頭文字であり、SはSpecialtyで、呼吸器内視鏡はC+Sに該当すると考えています。

呼吸器内科はスタッフ4名、後期研修医3名、ローテーター

シヨンの初期研修医2~3名で診療を行っています(写真2)。個々の医師が特定の疾患だけでなく、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息、COPD、感染症など、呼吸器内科が関わる全ての分野に対して偏りなく専門医として診療することをモットーとしています。当院は日本内科学会、日本呼吸器学会および日本アレルギー学会の認定施設で、さらに2016年半ばに現部長の出雲の赴任により日本



写真1. 日本赤十字社医療センター外観。



写真2. 呼吸器内科スタッフ。

¹日本赤十字社医療センター呼吸器内科。

著者連絡先：出雲雄大，日本赤十字社医療センター呼吸器内科，〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 (tel: 03-3400-1311, fax: 03-3409-1604, e-mail: izumo_takehiro@med.jrc.or.jp)。

施設連絡先：日本赤十字社医療センター呼吸器内科，〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 (tel: 03-3400-1311, fax: 03-3409-1604)。

© 2018 The Japan Society for Respiratory Endoscopy



写真3. 病理部とのカンファレンス。

呼吸器内視鏡学会の認定施設となりました。気管支鏡の年間件数は2016年までは約250件でしたが、2017年は312件と年々検査数は増えています。当院の気管支鏡の特徴として、全例でミダゾラムとベチジンを用いた積極的に鎮静することで患者さんの苦痛緩和を心がけています。実際に検査終了後に検査を覚えている患者さんはほとんどおらず、苦痛の少ない検査が行えています。肺末梢病変に対しては全例でVincentによるナビゲーションを作成し、カンファレンスで関与気管支を同定した後にEBUS-GSを行っています。特に進行がんや再生検に対しては通常の病理組織検体のみならず、遺伝子解析やLC-SCRUMなどの目的で凍結検体が必要であるため、太径ガイドシースを必ず用いて大きな検体を10～15個採取しています。肺門・縦隔リンパ節転移や中枢病変に対

しては、新しい穿刺針を用いたEBUS-TBNAを積極的に行っています。さらにスリガラス結節（GGN）を呈する肺がん疑いの病変やびまん性肺疾患に対して、現在クライオバイオプシーによる検体採取・病理診断を行っています。当院には日本トップレベルの病理診断医が複数在籍していることから、特にびまん性肺疾患のクライオバイオプシーや胸腔鏡下肺生検の病理検体を直接カンファレンスで手ほどきを受ける機会が定期的であり、教育機関としても充実しています（写真3）。また、原因不明の胸水症例や胸膜病変に対してクライオバイオプシーを用いた局所麻酔下胸腔鏡も行っています。

呼吸器インターベンションとしては、重症難治性気管支喘息に対する気管支サーモプラスティを、手術室で全身麻酔下に2018年3月までに約10人の患者さんに行いました。全身麻酔下で行うことにより患者さんの苦痛軽減はもとより、術者のストレス軽減および治療が確実にできると考えています。そのほか、気管ステント留置および難治性気胸などに対するEWS留置なども2017年は7件行い、年々紹介患者さんが増えています。

当院は2018年4月に「がん総合診療センター」の開設を控えており、全職員が一丸となって、2020年の東京オリンピックに向けての「Tokyo Project 2020」を推進しています。当院での研修・見学に興味のある先生は当科のホームページ <http://www.med.jrc.or.jp/hospital/clinic/tabid/139/Default.aspx> をご覧いただき、教育担当（部長）の出雲までe-mailでご連絡いただければ幸いです。

出雲雄大¹